

瀋陽駐在員事務所

議員の大量資格停止

当事務所のある遼寧省の人代(人民代表大会=議会)議員 619 名の内、454 名が選出時の不正(金銭の授受など)により資格停止となりました。また、これに先立ち日本の国会にあたる全人代(全国人民代表大会)の遼寧省選出議員 45 名(定数 102 名)も同様の理由で資格停止が発表されました。議会議員の半数以上が資格停止となる事態ですが、日本のようにメディアで大きく取り上げられることもなく、一般市民が話題にすることも少ないように感じます。我々日本人から見ると極めて不思議な状況ですが、以下の様な「お国柄」も少なからず関係しているのではないかと思います。

1)この件を大きく取り上げたり、口にしないのは、いろいろな形で影響がでることへの警戒感からだと思います。特にメディアは、これまでも香港や広東省で社会批判的な論調を掲げる所が相次いで弾圧されています。

2)加えて、そもそもこの「人代」は政府の追認機関に過ぎず、議会機能がストップしても社会的影響は殆どないと言えます。

こうした「議員」の行状は遼寧省に限ったことではありませんが、こうした動きが他の地域へ広がっていくと全国的に政治的な確執がより先鋭化するのではないかと危惧されています。

南 敏律

ユジノサハリンスク駐在員事務所

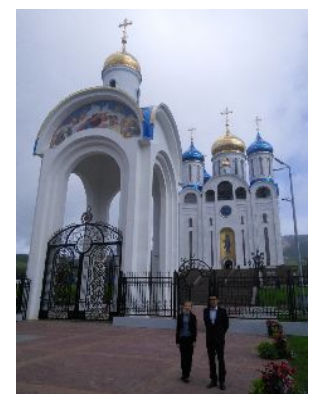
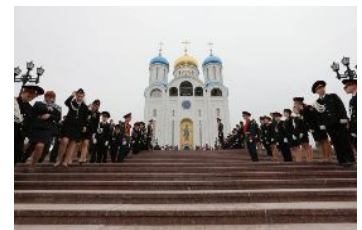
【ロシア正教大聖堂と勝利記念館】

ロシアは豊かな歴史を持つ多民族国家です。宗教も様々ですが、一番普及しているのはロシア正教です。極東地方最大級の大聖堂がユジノサハリンスク市の勝利広場に建てられました。高さ 70m 以上の巨大な施設は数千人の参拝客を収容できます。大聖堂が完成し、モスクワから総主教キリル 1 世がサハリンを訪れ、9 月 4 日に礼拝式が行われました。

私は無宗教ですが、建築の素晴らしさに感動し、入りたいという気持ちになりました。大聖堂の内部は外部の美しさに負けないほど立派です。壁画作成に携わっていた人達は、優秀な絵画の専門家というだけでなく、キリスト教に深い信仰心を持っていることが明らかになりました。

勝利広場に建設された大聖堂に加えて、広場と同名の記念館が建設中です。展示は第二次世界大戦、日露戦争、アフガニスタンでの戦闘活動に関わったサハリンの出身者などを対象にする予定です。

5 年ほど前は、このような施設が私の出身地であるユジノサハリンスクという小さな町に建設されるとは考えられませんでした。ぜひ、サハリンに見に来てください!!



シュートフ・アレクサンドル

ウラジオストク駐在員事務所

「東方経済フォーラム開催」

9月2～3日、ウラジオストクの極東連邦大学キャンパスにおいて第2回東方経済フォーラム（ ）が開催され、壇八会長や北海道総合商事天間社長に随行し参加してきました。今年はプーチン大統領のほか、安倍首相や韓国朴槿恵大統領、北海道からは高橋知事が出席するなど昨年にも増して華やかなイベントになりました。ロシア連邦政府が極東地方の経済発展にける意欲は大変なもので、そこに日本や韓国の力を借りたいとの思いが伝わってくる内容でした。この中で北海道銀行は、極東ロシアと日本企業のビジネスマッチングを推進するため現地に日本人職員を駐在させている唯一の金融機関として注目を集めています。

今回のフォーラムの中で当行は、ハバロフスクやヤクーツクの温室栽培事業にかかる協力協定や覚書を取り交わしたほか、安倍首相との懇談会、日口の有力企業・団体が参加するラウンドテーブル（円卓会議）や各分会において、壇八会長や天間社長がスピーチを行い、「北海道銀行」「北海道総合商事」の名を広くアピールすることになり、現地マスコミにも大きく取り上げられました。東方経済フォーラムは今後も毎年ウラジオストクで開催される予定です。「北海道」の知名度はウラジオストクでは今一つですが、このようなイベントを活用して存在感を高めビジネス実現につなげていきたいと思ひます。

アジア太平洋地域との交流強化、ロシア極東地域への新たな投資呼び込みを目的に開催されるフォーラム。昨年9月に初めて開催され、日本・韓国・中国などアジア太平洋地域から多く参加し、2000人を超える政府関係者・ビジネスマンなどが出席。



ロシアのテレビ局に出演中の壇八会長



日韓三首脳ディスカッション

中川文敏

北陸銀行バンコク駐在員事務所

「要チェック！ 北海道が舞台の最新タイ映画」

北海道を旅行で訪れるタイ人が年々増加しています。2010年の年間タイ人観光客数は18,400人、2015年の年間タイ人観光客数は155,200人と、ここ5年で8倍と大幅に増加しています(北海道経済部観光局調べ)。その背景や理由についてはまた機会があれば述べるとして、今回は増加するタイ人観光客数をさらに加速させる可能性のある最新の映画「fan day」について紹介したいと思います。



舞台は冬の北海道。さっぽろ雪まつり会場の他、小樽、函館、登別、赤井川村などでロケが行われた様です。若いタイ人男女のラブコメディーでタイでは今年9月に公開予定です(タイランドハイパーリンクス調べ)。バンコク市内ではテレビCMや電車内の液晶スクリーンで頻りに宣伝されており、注目度の高さが伺えます。映画監督は「愛しのゴースト(原題 ピーマーク・プラカノン)」で2013年にタイ映画の興行収入の記録を塗り替えて歴代1位を獲得したバンジョン・ピサントナクーン監督です。

タイ人氣質として自撮りや風景の写真をFacebook等のSNSに頻りに投稿する事は先月のTOPICS「SNS 天国、タイ」にて述べました。今後、映画を見たタイ人観光客が北海道中のロケ地巡りに訪れることが考えられます。日本での公開予定は未定ですが、話題としてこの映画の存在を押さえておくだけでも「おもてなし」につながると思ひます。

吉田 雄司

日中経済協会 北京事務所 札幌経済交流室

自転車大国復活？

ライフスタイルを豊かにする画期的なレンタル自転車サービス、「Mobike」が北京に登場しました。先月の TOPIX で紹介した市が運営する公共レンタル自転車は駐輪場間の移動に限られるのに対し、Mobikeは何処で乗り捨ててもOKです（一部例外あり）。使い方は至って簡単。専用のアプリをインストールすると、GPSにより最寄りの場所に置かれている自転車が表示されます。使いたい自転車を予約した後、車体に付いているQRコードをスキャンすれば自動で鍵が開錠されます。目的地に着いたら自転車を施錠して終了です。利用料金は30分1元/16円（別途デポジット要）で、支払いはスマホ上（アリペイか微信）で行います。



QRコード付自転車



専用アプリ

北京では慢性的な交通渋滞のほか、地下鉄・バスの通通勤ラッシュも深刻で、移動するのも一苦労です。北京の主要道路には自転車専用レーンがあり、走りやすい環境でもあるため、自転車での移動が最も効率的といえます。Mobikeは9月から北京でサービスを開始し、現在3,000台超が市内各地に配置されています。半年後には、想像を超える台数が配置され、街中はMobikeだらけになっているかもしれません。

小笠原 宅麻

北海道 ASEAN 事務所(シンガポール)

シンガポールの北海道人気

シンガポールでは、毎年2月と8月に、最大級の旅行博が2回ずつ開催されます。旅行業者・各国の政府観光局・航空会社など100社余りが参加するこれらのフェアは3日間の開催で、延べ10万人程度が来場します。今回、8月に開催された旅行博を視察しました。

ちなみに、なぜ2月と8月の開催なのかというと、スクールホリデーと呼ばれる学校の長期休暇と関係しています。シンガポールには5月末からの夏休みと11月末からの冬休み（赤道直下のシンガポールに冬はおろか、四季自体ありませんが...）がそれぞれ1か月程度あり、それぞれに向けた旅行商戦が2月、8月に始まる、というわけです。

さて、実際に各社のブースを訪れたところ、多くの旅行会社が北海道ツアーを販売し、来場者が興味を持っている光景が随所に見られました。6月のTOPICSに記載した通り、日々の業務の中で北海道旅行の人気を実感していましたが、改めて北海道人気を感じる機会となりました。

ただし、実際のパンフレットを収集してみると、札幌を中心とした道央、洞爺・登別や函館を周遊するツアーが多く、道北、道東地区を組み込んでいるツアーは少ないといった地区の偏りがあり、これらの地区の情報・魅力を発信していくことが求められる、とも感じています。

全道の様々な情報をASEAN諸国に伝えるなど、来道外国人旅行者数の増加に寄与する活動を継続していきます。



現地旅行業者が北海道旅行を

PRする様子

津川 剛史